

SYLLABUS

2025



別府市医師会立別府青山看護学校

3 年課程

専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

老年看護学

科目区分	専門分野	科 目 名	老年看護学概論	必須・選択	必須
学 期	後期	対象学年	1 年	単位(時間)	1 単位 (15 時間)
担当教員	岡部裕美	実務経験と関連資格	病院における看護師経験、 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	超高齢社会を迎え、2025 年には地域包括ケアシステムの導入を控えており、保健医療福祉のあり方や看護を提供する場には、様々な課題が生じている。それらの課題を解決するうえで、看護師の果たす役割は大きい。そこで、その人の生活史を知り、その人らしさを失わないケアを提供するために必要な高齢者の理解と、社会資源についての基本的な知識を学ぶ。				
目 標	1. 高齢者の発達課題と役割の変化、および加齢への適応の過程について理解する。 2. 高齢者の疾病と加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を考慮したうえで、高齢者の健康について理解する。 3. 高齢者の機能評価や制度を知ること、その人らしい生活について理解する。 4. 老年看護の役割について理解する。 5. 高齢者の権利擁護と倫理的課題について理解する。 6. 高齢者のこれまでの生活史（ライフヒストリー）を理解する。				DP1,2,3 DP3 DP5 DP3, DP1,2,4,5 DP1,6
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回 講義	授業の到達目標	老年期の発達課題と役割機能の変化、および加齢への適応の過程について理解する。		テキスト①P 2～18 P58 ワークシート	テキストを熟読する 提出期限までに高齢者の生活史レポートを完成させる。
	各コマにおける授業予定	1. ガイダンス 2. 老年期にある人のライフサイクルにおける発達課題から役割機能の変化を説明する。 3. 加齢と老化による影響として喪失体験、サクセスフルエイジング、エイジズム、スティグマ、スピリチュアリティについて説明する。 4. 高齢者の自立支援や多様な価値観について説明する。			
第 2 回 講義	授業の到達目標	高齢者の生活史を調査し、高齢者の人生を理解する。		学生のレポートを活用した共有会 P90 コラム	
	各コマにおける授業予定	1. 高齢者が生きてきた人生を年表にし、生きてきた時代やこれまで構築してきた価値観、生きがいや役割意識などについて調べ、グループワークと発表を通して説明する。			
第 3 回 講義	授業の到達目標	高齢者疑似体験を通し、加齢に伴う身体機能、心理的・社会的変化について理解する。		テキスト②P18～45 ワークシート ※高齢者疑似体験スーツ（おいたろう）装着	※学生は体操服を着用しておくこと。体操服の上に高齢者疑似体験スーツを着用する。
	各コマにおける授業予定	1. 高齢者疑似体験を通して、加齢と老化の影響について説明する。 2. 高齢者の疾患の特徴、高齢者の生じやすい生活上の問題を説明する。			
第 4 回 講義	授業の到達目標	高齢者の健康と疾病、および加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化についての学びをとおして、高齢者の健康について理解する。		テキスト①24～35 ワークシート	ミニテスト対策～ ビジュラン 目で見る老年看護学

	各コマにおける授業予定	1.高齢者の事例を通して生活について知り、統計学的な傾向を考える。 2. 高齢者疾患の特徴と生じやすい生活上の問題について説明する。	ミニテスト 1 回目	高齢者の生理機能Ⅰの動画視聴と、ミニテストに取り組む
第 5 回 講義	授業の到達目標	高齢者の生活に関する保健医療福祉制度を知り、その人らしい生活について理解する。	テキスト①P36～54	ミニテスト対策～ビジュラン 目で見る老年看護学
	各コマにおける授業予定	1. 高齢者の保健医療福祉制度と変遷（医療保険制度、介護保険制度など）を説明する。 2. その人らしい生活を送るために多職種との連携協働について説明する。	ワークシート ミニテスト 2 回目	高齢者の生理機能Ⅱの動画視聴と、ミニテストに取り組む
第 6 回 講義	授業の到達目標	老年看護の役割について理解する。	テキスト①P70～83、P86～94	ミニテスト対策～ビジュラン 目で見る老年看護学
	各コマにおける授業予定	1.高齢者の生活史と家族構成とニーズの変化を説明する。 2. 老年看護の概念（エンパワメント、ストレングスモデル、コンフォート理論）を説明する。 3. 老年看護学教育の発展について説明する。 4. 生活習慣、生活様式を理解する。 5. ICF,CGA などの生活機能評価を説明する。	ワークシート ミニテスト 3 回目	高齢者の生理機能Ⅲの動画視聴と、ミニテストに取り組む
第 7 回 講義	授業の到達目標	高齢者の権利擁護と倫理的課題について理解する。	テキスト①P54～66	
	各コマにおける授業予定	1. 高齢者差別や高齢者虐待の防止と権利擁護（アドボカシー）を説明する。 3. 看護者の倫理的責任を説明する。 4. ノーマライゼーションについて説明する。	ワークシート ミニテスト	
第 8 回 講義	授業の到達目標	まとめ（40 分） 終講試験（50 分）		
	各コマにおける授業予定			
成績評価の基準と方法	終講筆記試験 80％、 ①課題レポート 20％➡課題は評価は配布したルーブリック評価を使用します。。 高齢者の生活史レポートを『記入例資料』を基に作成し、A4 サイズに印刷して提出。Word 文書 1000 字以上 ★提出期限 2024 年 1 月 10 日（月）8:50 課題レポート用フォーマットは Teams 内ファイルに添付しています。各自の iPad にダウンロードして作成し、プリントアウトして提出します。			
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾病論 医学書院		
	参考図書			
	その他	配布資料		
授業以外での学習方法	高齢者との関わりを意図的に持つことが重要な学びに繋がります。 高齢者が自らの生活史を語る機会を設けましょう。 高齢者の関わる情報をニュースや新聞で収集し、高齢者の問題について考える習慣をつけましょう。			
履修にあたっての留意点	提出物の未提出や提出遅れがあった場合は、試験結果から減点します。			

科目区分	専門分野	科目名	老年看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	貞清 瑞枝	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	高齢者は健康な時もあれば病気を患い、治療が必要な時もある。健康であっても、加齢に伴う身体機能の低下が生じることもあり、高齢者は、何らかの障害を抱えながら生活していることも多い。このことから、加齢変化や疾病、傷害を併せ持つ高齢者の生活を整えるために必要な基本的知識・技術を学ぶ。				
目 標	1. 高齢者に特徴的な疾患・症状・障害に応じた看護について理解する。 2. 高齢者疑似体験をとおして、加齢変化による不自由さ困難さを理解する。 3. 高齢者の生活機能を整えるために必要な基本的援助技術を理解する。 4. 様々な健康状態や受療状態にある高齢者の看護を理解する。 5. 高齢者の自立支援、介護予防について理解する。 6. 高齢者のリスクマネジメントについて理解する。				DP への対応
					DP3 DP1,2,6 DP1,3 DP3,4 DP3,5,6 DP3.5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	急性期・回復期・慢性期にある高齢者の受療状態に応じた看護を理解する。		テキスト① p.318～347 p.355 ②p.284～ 287、302～ 303	領域横断科目 終末期と看護 領域横断科目 周術期と看護 領域横断科目 薬物療法と看護 社会福祉
	授業予定	1. ガイダンス 2. 高齢者の強みを活かした、意思決定支援(ACP)について説明する。 3. 外来を受診する高齢者、検査を受ける高齢者への看護について説明する。 4. 高齢者の生活機能の維持向上とリハビリテーションについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の自立支援・介護予防と、リスクマネジメントについて理解する。		テキスト① p.142～ 146、388～ 407 ②p.48～ 61、87～92	領域横断科目 保健指導論 基本看護技術Ⅱ 安全予防と感染管理
	授業内容	1. 高齢者の廃用症候群予防と介護予防について説明する。 2. 高齢者の生活上のリスク（転倒、誤嚥や窒息、熱中症、被災）を理解し、状況に応じた看護について説明する。 3. 高齢者のリスクマネジメントについて説明する。			
第 3 回 〔演習〕	到達目標	高齢者の生活を支える「活動・移動」の基本的援助技術を理解する。		テキスト① p.122～146 ②p.73～ 93、230～ 239	基本看護技術Ⅰ 活動と休息を踏まえて、援助計画を立案する
	授業予定	1. 事例の症候をアセスメントし、高齢者の特徴を踏まえた歩行、移動、姿勢保持の看護の方法について援助計画を立案し実施できる。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。			
	授業予定	1. 高齢者の特徴的な疾患（骨折、骨粗鬆症、廃用症候群）の特徴と看護について説明する。 2. 老年症候群を理解し、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの状態について説明する。			
第 5 回 〔演習〕	到達目標	高齢者の生活を支える「アクティビティケア」の援助計画を立案し実施できる。		テキスト① p.185～ 197、213～ 225 ②p.70～73	基本看護技術Ⅰ 活動と休息
	授業予定	1. 事例の将校をアセスメントし、社会参加や生活リズムを整えるためのアクティビティケアについて援助計画を立案し実施できる。			
第 6 回	到達目標	高齢者の生活を支える「活動と休息・社会参加」の基本的援			基本看護技術Ⅰ

〔講義〕		助を理解する。		活動と休息
	授業予定	1. 高齢者の社会参加、性(セクシュアリティ)、生活リズムの調整、アクティビティケアについて説明する。 2. 社会参加への意義について説明する 3. 睡眠障害がある高齢者への看護について説明する。		
第 7 回 〔演習〕	到達目標	高齢者の生活を支える「清潔・衣生活」の基本的援助技術を理解する。	テキスト① p.172～184	基本看護技術Ⅱ 清潔と衣生活 を踏まえて、援助計画を立案する
	授業予定	1. 事例の症候をアセスメントし、高齢者の特徴を踏まえた清潔、身だしなみ、衣生活の看護の方法について援助計画を立案し実施できる。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。		
	授業予定	1. 脱水・皮膚の障害（老人性掻痒症、白癬）の特徴と看護について説明する。 2. 掻痒感（老人性掻痒症）のある高齢者の看護について説明する。 3. 褥瘡のある高齢者への看護について説明する。		
第 9 回 〔演習〕	到達目標	高齢者の生活を支える「食事・排泄」基本的援助技術を理解する。	テキスト① p.146～171 ②p.36～41、77～81、176～179	基本看護技術Ⅱ 排泄，食事援助を踏まえて、援助計画を立案する
	授業予定	1. 事例の症候をアセスメントし、食生活（自助具の活用・嚥下食の摂取）や排泄（おむつ交換）の看護について援助計画を立案し実施できる。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。		
	授業予定	1. 高齢者の障害（低栄養、誤嚥性肺炎、尿失禁、便秘、下痢）の特徴と看護について説明する。 2. 摂食嚥下障害のある高齢者の看護について説明する。		
第 11 回 〔演習〕	到達目標	高齢者の生活を支える「コミュニケーション」の基本的援助技術について説明する。	テキスト① p.198～212、282～317 ②p.26～37、135～149	基本看護技術Ⅰ コミュニケーションを踏まえて、援助計画を立案する
	授業予定	1. 事例の症候をアセスメントし、高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションの援助計画を立案し実施できる		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。		基本看護技術Ⅰ コミュニケーション
	授業予定	1. 認知症やせん妄のある高齢者の特徴と看護について説明する。 2. 認知症の症状に応じたコミュニケーション（パーソンセンタードケア、ユマニチュード）について説明する。 3. 視聴覚障害のある高齢者の特徴と看護について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	認知症患者やその方を支える方々の思いを理解する	テキスト① p.296～317、360～387	
	授業予定	1. 認知症の症状に応じたコミュニケーション（パーソンセンタードケア、ユマニチュード）について説明する。		
第 14 回 〔講義〕				
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 70%、援助計画レポート 20%、講演会参加レポート 10% （60%未満は再試験とする）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾病論：医学書院 e テキスト		
	参考図書	病院・在宅・訪問で使える高齢者のフィジカルアセスメント 角濱春海 メディカ出版		
	その他	配布資料、高齢者モデル「おいたろう」		

授 業 以 外 の 学 習 方 法	
履 修 上 の 留 意 点	基礎看護学で学習した看護技術を基本に高齢者への援助を計画・実施します。復習をしておきましょう。

科目区分	専門分野	科目名	老年看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	貞清 瑞枝	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	2025 年の地域包括ケアシステム導入に向けて、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するために看護師の役割は重要である。そこで、高齢者の生活の場を理解し、途切れることなくケアを継続するために必要な基本的知識を理解する必要がある。これまでに学習してきた高齢者の特徴を踏まえ、看護過程の展開や意思決定支援について学ぶ。				
目 標	1. 多様な生活の場で展開する高齢者の暮らしと看護について理解する。 2. 高齢者の生活機能から見た老年看護過程の展開について理解する。 (目標志向型) 3. 高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援 (ACP)について理解する。			DP への対応	
				DP2, 3, 5, 6 DP3, 4	
				DP1, 2, 3, 5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	別府市に暮らす高齢者の生活を理解する。		テキスト① ②③ 参考図書③ 資料	社会福祉 第 8, 13 回目
	授業予定	1. ガイダンス 2. 別府市の高齢化率を調査し、高齢者の入所施設の状況と特徴、諸サービスの活用状況について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	看護過程(目標志向型)の考え方を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業内容	1. 生活機能から見た老年看護過程を説明する。 2. 生活機能から見た看護過程の構成要素を説明する。 3. 目標志向型の看護過程の特徴を説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開 (アセスメント) を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 生活機能を重視したアセスメントの方法を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開 (アセスメント) を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 生活機能を重視したアセスメントの方法を説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開 (関連図) を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 病態、生活機能関連図の作成を説明する。 2. 加齢による生理的変化や生活背景が及ぼす影響を踏まえて、関連図を作成することを説明できる			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開 (問題の明確化) を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 病態、生活機能関連図の作成により、看護の焦点の明確化について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開 (計画立案) を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 具体策を考え、特徴を踏まえた計画の工夫・留意点を説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開 (計画立案) を理解する。		テキスト① ② 参考図書① 資料	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 具体策を考え、特徴を踏まえた計画の工夫・留意点を説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開(評価)を理解する		テキスト① ② 参考図書①	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 対象の状況に応じた援助の工夫・留意点を説明する。 2. PDCA サイクルの考え方を説明する			

			資料	
第 10 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開(評価)を理解する	テキスト①	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 実施内容の振り返りをもとに追加修正していくことを説明する。 2. 評価方法について説明する。	② 参考図書① 資料	
第 11 回 〔講義〕	到達目標	医療施設・介護保険施設に入院・入所する高齢者や地域密着サービス・居宅サービスを利用する高齢者の暮らしと看護について理解する。	テキスト① ②③ 参考図書③ 資料	社会福祉 第8, 13回目
	授業予定	1. 医療施設、介護保険施設、地域密着サービス・居宅サービスの種類と特徴を説明する。 2. 調査結果をグループ内で共有するために説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	医療施設・介護保険施設に入院・入所する高齢者や地域密着サービス・居宅サービスを利用する高齢者の暮らしと看護について理解する。	テキスト① ②③ 参考図書③ 資料	社会福祉 第8, 13回目
	授業予定	1. 入院・入所している高齢者の暮らしの特徴と看護の役割について説明する。 2. 地域密着サービス・・居宅サービスを利用する高齢者の特徴と看護の役割について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援(ACP)を理解する。	テキスト① ② 参考図書② 資料	領域横断科目 専門職連携 第6回目 領域横断科目 継続看護 第2, 3回目 がん看護 第1回目
	授業予定	1. 加齢による疾患や障害を持ちながらも、地域でどのように生活をしたいのか、希望と現実を確認しながら退院に向けての意思決定をする過程を説明する。 2. ACPにおける多職種との協働について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援(ACP)を理解する。	テキスト① ② 参考図書② 資料	領域横断科目 専門職連携 第6回目 領域横断科目 継続看護 第2, 3回目 がん看護 第1回目
	授業予定	1. グループで考えた ACP について説明する。 2. グループで考えた多職種との連携について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 40%、看護過程 30%、グループワーク 30%(合計点が60%未満の場合は再試験)		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 老年看護学 : 医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾病論 : 医学書院 e テキスト ③系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基礎 : 医学書院 e テキスト		
	参考図書	①第4版 生活機能から見た老年看護過程 山田律子 医学書院 ②患者家族の寄り添うアドバンスケアプランニング 角田ますみ メジカルフレンド社 ③公衆衛生が見える 医療情報科学編集初 MEDIC MEDIA		
	その他			
授業以外の学習方法		別府市内で生活する高齢者の生活環境やサービスについて調査し、第11・12回の講義までにまとめて発表をする。		
履修上の留意点				

